

ノーマライゼーションかしわプラン 平成30年度実績について（概要）

資料1 一概要

柱1 福祉意識の醸成と支えあいの環境づくりの推進

施策3 障害理解を支える拠点機能の整備

《平成30年度実績》

【教育福祉会館耐震改修等工事】

- ・教育福祉会館耐震改修工事後のあり方を検討する官民協働検討委員会を昨年8月末に設置。委員会・グループワークを各2回開催。
- ・官民協働検討委員会及び本年2月末まで実施した市民公募意見を踏まえ、方向性に関する骨子を作成。

評価



《課題と今後の取り組み》

- ・昨年度末に作成した骨子を踏まえ、今年度も継続して官民協働検討委員会を開催。
- ・今年度は、福祉・公民館分野別のグループワークや外部視察等を実施し、耐震改修工事後の具体的なあり方（福祉喫茶、障害者活動センター等）について検討を進めていく予定。

柱2 情報提供・相談、権利擁護体制の確立

施策1 情報提供・意思疎通支援の充実

《平成30年度実績》

【意思疎通支援事業（手話通訳者・要約筆記者の派遣）】

主な派遣先は、病院・行政機関・冠婚葬祭等で、一人当たりの手話通訳者設置窓口利用件数は増加したが、実利用者数はほぼ横ばいであった。

また、派遣件数は前年度よりも減少した。

評価



《課題と今後の取り組み》

実利用者数が増えていないため、より多くの方へ手話通訳者等の派遣を利用した情報保障制度について、周知していくことが必要である。

施策2 相談支援・ケアマネジメント体制の充実

《平成30年度実績》

【障害者相談支援・コーディネート事業】

平成30年4月より、沼南地域に3か所目の地域生活支援拠点開設に伴い、コーディネーターを設置できた。

評価
○

《課題と今後の取り組み》

計画を上回って拠点が整備されたことに伴い、コーディネーターの配置も増員できているが、今後は、拠点間の連携を強化していく必要がある。

拠点コーディネーターを中心に、他の相談員とも繋がって相談支援体制の充実を図っていく。

施策3 権利擁護体制の充実

《平成30年度実績》

【権利擁護ネットワーク会議の開催】

年3回権利擁護ネットワーク会議を開催し、虐待対応ケースについて検証を行い、今後の虐待防止相談体制について検討を行った。

評価
○

《課題と今後の取り組み》

虐待ケースについては、その対応について判断に迷うケースもあったことから、権利擁護ネットワーク会議において検証を重ねる他、弁護士等とアドバイザー契約を締結し、適切な判断を行っていく。

施策1 地域生活を支える場の拡充

《平成30年度実績》

【①地域生活支援拠点整備事業】

- ・平成30年4月に市内3か所目となる「地域生活支援拠点しょうなん」を柏市沼南地区に開設。
- ・計画を上回って整備が進んでいる。
- ・平成30年度末に市内4か所目として、要望の多い重症心身障害児者に対応可能な「地域生活支援拠点ぶるーむの風」を整備した。

評価
◎

《課題と今後の取り組み》

- ・拠点として受け入れられない場合の対応等の検討や、拠点同士の連携が必要。
- ・拠点の「専門的人材の確保・養成」という機能を活用し、人材育成による拠点の質の向上により、受入能力の向上を図る。

【②共同生活援助(グループホーム)の整備】

共同生活援助(グループホーム)の利用者数は、計画245人／月に対して261人／月と計画を上回った。

評価
○

重度の身体障害や強度行動障害等の障害特性に特化したグループホームが不足しており、今後も対応が求められる。

《平成30年度実績》

《課題と今後の取り組み》

【①日中活動系サービス(生活介護・療養介護・自立訓練)の提供】

特に生活介護については、障害者の重度化・高齢化を受け、積極的に新規指定を受け入れている。平成30年度は知的・精神向けの生活介護事業所が開設され、市内で20人の定員増が図られた。

評価
△

精神障害者、知的障害者に比べて、身体障害者が、高校卒業後から利用できる通所施設が少ないとの声が、当事者団体、各関係機関から多く聞かれるため、特に医療的ケアに対応した生活介護等の通所施設について今後基盤整備が必要。

【②短期入所等の緊急時対応サービスや体験・レスパイト等の支援】

平成30年3月末(平成29年度末)で地域生活支援拠点2事業所での緊急受け入れ数が、36人に対し、平成31年3月末(平成30年度末)では、拠点事業所が3か所に増えたことにより、77人となり、実績数が増えている。

評価
○

・家族介護者の高齢化による入院等のため障害者の緊急受け入れや、親なき後の障害者の自立が求められるケースが増えてきている。
・引き続き地域生活支援拠点事業所が、指定相談支援事業所、委託相談支援事業所と連携し、緊急時に迅速に対応できるよう適切な評価と指導を行う。

施策1 就労支援体制の充実

《平成30年度実績》

【②就労定着支援】

・就労定着支援事業の創設により今後、企業で働く障害者への支援を進めていく。

※柏市内就労定着支援事業所の申請状況

4月開設 1か所

10月開設 5か所

評価
※

《課題と今後の取り組み》

現時点で、就労定着支援事業の成果は本格的に開始されてから1年を経過していないため未知数。このため、実践を重ね、はたらく部会一般就労連絡会等で情報を共有し、支援技術の向上が求められる。

【③就労継続支援(B型)事業所の支援による工賃向上】

近隣ショッピングセンターにて市内の障害福祉事業所による販売会を開催することで、工賃向上に取り組んだ。

また、販売会以外にも、千葉県障害者就労事業振興センター職員を講師として招き、研修会を開催したが、県内平均額に届くには至っていない。

評価
△

・市内の障害福祉事業所の平均工賃額は、県内平均額を下回っており、工賃向上に向けた取組が必要。この課題解決に向けて、次の施策を推進。

- ・共同受注の推進
- ・行政需要の取り込み
- ・販売会の開催

施策2 スポーツ・芸術文化活動等の推進

《平成30年度実績》

【障害者スポーツ体験交流事業】

平成29年度から3カ年計画で柏市内全小中学校で交流会を実施中。

平成30年度末で44の小中学校で交流会を実施済。

評価

○

《課題と今後の取り組み》

今後、令和元年度末までに19の小中学校で体験交流事業の実施を予定している。

単発の体験学習で終わらせることなく、他教科等と関連を図りながら、各学校で子どもたちの学びを深めることが課題である。

柱5 子どもの成長への支援

施策1 保健・療育等の充実

《平成30年度実績》

【①児童発達支援・医療型児童発達支援・居宅訪問型児童発達支援の充実】

- ・新たに児童発達支援事業所間の情報交換を実施(15事業所参加 平成30年10月)
- ・キッズルームひまわり(30年11月・8事業所)、リトルペガサス(31年3月・7事業所)で官民の公開療育を実施し今後の療育に活かしたいと好評を得た。
- ・民間による居宅訪問型児童発達支援事業所が開所され(県内初)、支援の受け皿が広がった。
- ・各事業所にて国ガイドラインに沿って適切な支援の提供に取り組んだ。

評価

○

《課題と今後の取り組み》

- ・児童発達支援事業所間の連携強化と療育スキルの向上が課題であり、(仮称)児童発達支援事業所連絡会を立ち上げ、課題解決に向けた情報交換や職員研修を実施する。
- ・公表が求められている事業所評価を活用し改善に努める。

【②保育所等訪問支援事業】

・キッズルームひまわり 実績
実人数(契約児数)

35人から40人に増加

訪問延回数

307回から375回に増加

* 数値は平成31年3月末現在

・事業の周知を図るため、新たに民間保育園園長会議にて保育所等訪問支援事業の説明を行った(7月)。

評価

○

・新設保育園が多い中、引き続き事業の周知と理解を求めていくことが課題であり、(仮称)児童発達支援事業所連絡会を活用し、保育所等訪問支援事業所を交えて、保育園・幼稚園等への事業説明会を実施する。

・施設側への支援をする巡回支援を含めて訪問型支援を充実させていく。

柱6 健康・医療体制の充実

施策1 健康管理等の支援

《平成30年度実績》

【フレイル予防事業】

・フレイルチェックを軸に、フレイル予防の3本柱(栄養・運動・社会参加)に基づき事業を推進している。

・フレイルチェック参加者は1,034名で、平成30年度目標人数1,000人を上回った。

・ツイッターやフラッグ等により、広く市民に対し啓発を行っている。

評価

◎

《課題と今後の取り組み》

・市民が地域ぐるみのフレイル予防活動に取り組めるよう、立ち上げ支援や継続支援を行うとともに、通いの場事業の充実を目指す。

・民間企業と連携し、フレイル予防の普及啓発に広がりを持たられるよう検討していく。

施策3 精神保健の充実

《平成30年度実績》

【精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための関係者協議の場の設置】

- ・代表者会議はほぼ計画どおり1回実施した。
- ・実務者会議は6回実施し、地域の課題やピアサポート活動の検討、精神科医療機関と相談支援事業所職員との合同勉強会の開催、また、地域包括ケアシステムの構築に向け協議した。

評価

○

《課題と今後の取り組み》

- ・地域課題の抽出を行い、代表者会議及び実務者会議にて課題の共有を図り、地域包括ケアシステムの構築に向けて検討を行っていく。
- ・また、自立支援協議会(全体会)と連携を密にし、情報共有を図っていく。

柱7 安全・安心な生活環境の整備

施策1 安全対策(防災, 防犯等)の推進

《平成30年度実績》

【ヘルプカードの配布】

千葉県で作製しているヘルプカードに加えて、ストラップ型のヘルプマークを市で作製して8月から配布を開始し、各近隣センターや保健所等、配布場所の拡大を行った。

また、12月の広報かしわにて特集記事を掲載して周知を行った。

- ・ヘルプカード配布数 3,518枚
- ・ヘルプマーク配布数 1,821個
(ヘルプマークは8月から配布)

評価

◎

《課題と今後の取り組み》

- 自治体に加え、各鉄道会社等でも啓発活動が盛んになり、ヘルプカードやヘルプマークが広く知られるようになった。
- 特に、ストラップ型のヘルプマークの需要が高く、これまで各市町村で作製・配布していたが、県域での作製及び啓発を要望してきた結果、今年度より県で作製して市町村に配布される予定となっている。
- 今後も、必要な方への配布を積極的に行っていく。